

# 令和8年度 学力向上のための重点プラン【小学校】 新宿区立鶴巻小学校

## ■ 学校の共通目標

授業作り	重 点	各教科、総合、特別活動等において、児童の主体的な活動を引き出す指導方法の工夫
環境作り		すすんで考えをもち堂々と伝え合いながら互いに認め合おうとする学習意欲の向上

## ■ 学年の取組について

学 年	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組
1 学 年		<p>国語科では、平仮名、片仮名、漢字を正しく書くことができる、また読むことができる。物語文や説明文を読んで内容の大体を捉えることができる。</p> <p>算数科では、数の大きさやその並び方を理解したり、足し算や引き算で正確に答えを求めたりすることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題意識や目的意識、学習の見通しをもたせるための単元や一単位時間の授業の導入を工夫する。</li> <li>朝学習の時間やタブレットを活用し、国語科「言葉・文字」、算数科「数量」に関する反復学習を継続する。</li> <li>具体物の操作活動や体験活動を積極的に取り入れる。</li> </ul> <p><b>【操作活動の具体例】</b> →算数ブロック、カード、テープ</p> <p><b>【体験活動】</b> →栽培体験（生活）、音読劇（国語）、生き物の観察（生活）</p>
2 学 年		<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的・基本的な学力の確実な定着を図る。</li> <li>文字を正しく丁寧に書くことができるようにする。</li> <li>自分の経験や考えを簡単な文で表現することができる。</li> <li>話を最後まで集中して聞き、内容をとらえることができる。</li> <li>文章に親しみ、すすんで内容を理解しようとする。</li> <li>数や計算の意味を理解し、基本的な計算を正しく行うことができる。</li> <li>数量の関係に着目して問題文を読み取り、図や式を用いて考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習の内容や方法を工夫し、学習習慣の定着を図る。</li> <li>習熟度に応じた課題を設定し、補充学習や個別指導を実施する。</li> <li>文字の手本を示し、とめ・はね・はらいに気を付けて書くよう指導をする。</li> <li>身近な経験を書く活動を継続的に続ける。</li> <li>いろいろな文章を音読する課題を継続的に行う。</li> <li>毎月のおすすめ本を選定して読書推進する。</li> <li>計算の手順や考え方を確認しながら繰り返しの練習を行う。</li> <li>大切な言葉や数量に着目して読み、絵図や式などを用いて様々な考え方を確認する。</li> </ul>

<p>3 学 年</p>	<p>令和7年度学力定着度調査では、国語、算数共に区平均を下回った。 国語では、特に「言葉・情報・言語文化」「書くこと」「読むこと」に課題が見られる。特に、文章を読んで記述で答える問題の正答率が低く、語彙力や表現力を高める必要がある。 算数では、「図形」「測定」に課題が見られる。特に、問題場面的に把握し、立式したり、計算して答えを求めたりすることに課題がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章の内容や登場人物の性格や心情の変化など、日常生活と結びつけながら想像できるように丁寧に指導する。</li> <li>自分の言葉で考えを書く機会を増やす。</li> <li>問題を最後まで読み、問題場面的に把握し、導き方を考えたり、答えを求めたりすることができるように指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>場面ごとに分けて文章の内容や登場人物の性格や心情の変化などを確認する。</li> <li>毎授業の振り返りで自分の考えを書く機会を設けたり、宿題として日記指導を行ったりする。</li> <li>問題文を正しく読み、問われていることを全体で確認してから問題に取り組むようにする。</li> </ul>
<p>4 学 年</p>	<p>令和7年度学力定着度調査では、国語、算数ともに区平均を上回った。 国語では、どの領域も区平均を上回ったが、「書くこと」の正答率が58%、「読むこと」の正答率は65%である。前年度と比較するとD層は大幅に減少し、A層は増加しているが、上位層(約6割)と下位層(約3割)の割合は変化していない。物語文や説明文を読み、自分の言葉で考えをまとめることに課題がある。 算数では、「数と計算」の正答率は86%であったが、「測定」が70%、「図形」が71%である。2桁×2桁の計算や、あまりのあるわり算の計算の正答率が約50%である。問題文から、意図を的確に読み取ることに課題がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>根拠に基づく記述力の育成のため、精査・解釈の深化：叙述を根拠に心情や主張を捉え、自分の言葉で論理的にまとめる記述活動に取り組む。</li> <li>層に応じた支援の下位層への個別フォローと上位層への高度な問い立てを両立し、全学力層の記述力を向上する。</li> <li>読解力の向上と計算の定着のため、立式前の読解指導：問題文の意図を線分図等で整理する時間を確保し、正しく立式する力を養うため、基礎計算の定着を行う、主に2桁の筆算やあまりのあるわり算の反復練習を徹底する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の終末に、叙述を根拠とした振り返りの記述を行い、書くことへの抵抗感を軽減する。</li> <li>ベン図やマインドマップを用い、考えを整理・構造化してから記述するプロセスを徹底し、論理性を高める。</li> <li>立式前に条件を構造化する「問いの読み取りタイム」を設け、測定や図形問題での立式ミスを防ぐ。</li> <li>あまりのあるわり算等、躓きの多い計算の帯学習を継続し、計算の正確性を高める。</li> <li>ドリルパークなどデジタル教材を使い、様々な問題に触れさせる機会を設ける。</li> </ul>
<p>5 学 年</p>	<p>令和7年度学力定着度調査では、国語が区平均を上回ったが、算数は区平均を下回った。 国語では、「書くこと」の正答率が48%であり、半数の児童が正答できていない。「読むこと」の正答率は区平均を上回っているが64%であり、約4割の児童が正答できていない。前年度と比較するとA層は増加しているが、上位層と下位層の割合は変化していない。 算数では、「測定」の正答率が54%であり、約半数の児童が正答できていない。「数と計算」の</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像できるように指導する。</li> <li>文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもったり、共有したりする機会を設ける。</li> <li>文章問題を読み正しく題意を捉えて、立式できるように指導する。</li> <li>個に応じた習熟を促すよう指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>場面同士のつながりを意識し、関係を捉えやすいように全文読みで学習する。</li> <li>場面と場面を比較させたり、人物の言動に着目したりして読む経験を積み重ねる。</li> <li>問題文をなぞり読みし、分かっていることと聞かれていることを整理する。</li> <li>基礎・基本の定着が不十分な児童には、達成度に合わせた個別の課題と支援を行う。</li> <li>漢字テストを定期的実施し、定着を図る。</li> </ul>

	<p>正答率は67%であり、3割以上の児童が正答できていない。前年度と比較すると、D層が大幅に増加し、A層が減少している。</p>		
6 学 年	<p>令和7年度学力定着度調査では、国語、算数ともに区平均を大きく上回った。</p> <p>国語では、区平均を上回ったが「書くこと」の正答率は52%であり、約半数の児童が正答できていない。「読むこと」の正答率は61%であり、約4割の児童が正答できていない。前年度と比較するとD層が減少し、B層が増加することで上位層の割合が増加している。説明的文章を読み取りに正しく聞かれていることに回答できた児童が約5割であり、課題がある。</p> <p>算数では、区平均を上回っているが「数と計算」の正答率は74%であり、約3割の児童が正答できていない。前年度と比較するとD層が減少し、A層が増加することで、上位層の割合が約半数に増加している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字の部首を覚えることや書くことなど、基礎知識を定着させる。</li> <li>・自分の考えが読み手に伝わるよう根拠を示したり文章構成を考えたりして、書く力を付けさせる。</li> <li>・小数や分数の計算、概数など、苦手な単元・領域を克服させる。</li> <li>・文章問題では、内容を正しく読み取らせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週、漢字の小テストに取り組み、間違えた字を繰り返し練習する。</li> <li>・物語文や説明文のまとめの活動で200字程度の文章で自分の考えを表現する活動に取り組む。</li> <li>・週に1回、読書の時間を取る。</li> <li>・デジタルドリルを繰り返し活用したり、プリントでの家庭学習を充実したりして基礎知識の定着を図る。</li> <li>・問題内容を正確に捉えられるように分かっていることと聞かれていることを色線で区別し、正しく答える力の定着を図る。</li> <li>・タブレット端末を有効活用し、協働的な交流活動を通して充実を図る。</li> </ul>
特 別 支 援			